

マーヅ川

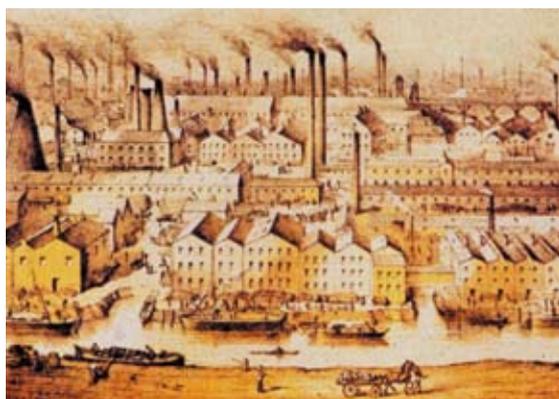
イギリス

Mersey River



イギリス中北部を流れるマーヅ川流域(4,680km²)には、イギリス産業革命発祥の地であるマンチェスターやリバプールなどが含まれ、マーヅ川の豊富な水量と船による物流、更には廃棄物処理の受け皿としての存在が産業革命を成し遂げたといっても過言ではありません。この産業革命はマーヅ川流域に大きな富をもたらしましたが、一方で、19世紀から20世紀にかけてヨーロッパで最も汚染された川という汚名も着せられてきました。

第二次世界大戦後は、イギリスの多くの都市と同様に、リバプールやマンチェスターも著しい産業不振で経済は衰退し、さらにマーヅ川の水環境悪化が大きな社会問題となりました。こうした中、サッチャー政権下の環境大臣で



19世紀頃のリバプールの様子

あるマイケル・ヘゼルタイン氏が、「マーヅ川流域をこれからの時代に相応しい環境水準へと再生することで新たな雇用を生み出し、この地域の経済の再生を図ろう」という歴史に残る演説を1983年にマンチェスターで行い、これが契機となりマーヅ川流域再生に向けた活動が始まりました。

マーヅ川流域の経済・社会・自然環境の再生を三本柱とした「マーヅ川流域キャンペーン」が1985年に政府主導で設立され、「2010年までにマーヅ川流域一帯の水質を改善し全河川を魚が棲める状態にする」「ビジネス・娯楽・住宅・環境・歴史的な遺産のために魅力的な水辺の開発を行



1980年代の水質悪化の様子

う「マージ川流域の住民が水辺や水路の環境を大切に思い保全していく様に促す」という3つの目標を掲げ、2010年までの25年間という長期計画に基づくマージ川流域再生に向けた活動が行われました。

マージ川流域キャンペーンでは、行政、企業、市民及び市民団体によるパートナーシップを大原則とし、各セクターが連携しながら、老朽化した河川施設の改善、下水道システムの更新、工業や農業に対する厳しい水質規制の導入、水辺学習や各種イベント、清掃活動、流域単位での環境教育等を実施してきました。

マージ川流域全体での取り組みの結果、サケが戻るほどに水質の大幅な改善が図られ、また工場跡地や内陸港湾地区におけるウォーターフロント開発も進み、大規模商業施設や国際会議場などが建設され都市の活気が蘇りました。また、毎年「マージ流域週間」では4,500人以上が運営に関わる350もの関連行事が1週間に渡り流域全体で開催されるなど、マージ川流域を守り育てていく草の根活動が定着しています。

2010年にマージ川流域キャンペーンは終了しましたが、活動の一部は流域内のNGOや企業、また市民団体へと引き継がれ、生態系の再生や、今後直面する異常気象への対応、更にはエネルギー源としてのマージ



酸素注入施設



パートナーシップによる活動



現在のマージ川の様子

川の利用など、持続可能なマージ川流域の開発に向けた新たなステージへと移行しています。

なお、マージ川流域キャンペーン専務理事(2010年時点)のWalter Menzies氏によると、マージ川流域キャンペーン25年間の活動を振り返っての決定的成功因子として、以下の11項目を上げています。

- (1) Vision : 明確な未来像
- (2) Regulator : ルールを定めること
- (3) Partnership : 連携
- (4) Engineer & Resources : 技術者とコア技術・資金
- (5) Adaptability : 適応力(柔軟性)
- (6) Time scale : 期間設定
- (7) Delivery : 行動すること
- (8) Communications : 対話すること
- (9) Leadership : 統率力
- (10) People : 組織より人が大事
- (11) Challenges : 挑戦